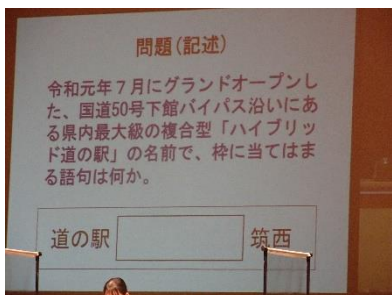


いばらきっ子郷土検定で郷土愛を醸成！

先日2月4日（土）にいばらきっ子郷土検定県大会が開かれ、石岡市代表として八郷中学校の2年生が出場しました。この『いばらきっ子郷土検定』は、茨城県が子どもたちの郷土を愛する心の醸成を図るために、県内の中学2年生を対象に実施している茨城県独自の「検定」で、10年目を迎えます。



自分たちが住んでいる市はもちろん、茨城県内のすべての市町村の歴史や文化、産業などについての問題に挑戦し、その正答率に応じて、1級から3級の認定証が授与されるというものです。（正答数が50問中、45問以上に1級、40問以上に2級、35問以上が3級となります。県内44市町村に関する各分野からの出題となりますので、3級以上を獲得するというのは、かなり難易度の高い検定となっています。）

問題はハイレベルです

そういった中、市内大会では1級を5名、2級を46名、3級を28名もの生徒が獲得し、見事石岡市代表をつかみ取りました。この高い正答率は本当にすばらしく、まさに今までの努力と協力の結晶だと思います。そして今回の県大会、八郷中学校の代表として出場したのは、廣瀬樹里さん、田中誠人さん、沼田彩聖さんの3人です。



Cグループということで、3番目に出場し、持てる力を発揮しましたが、残念ながら予選敗退となってしまいました。しかし、初出場を果たすことができた今年の出組は、きっと来年の2年生に受け継がれていくと思います。

今回の検定を通して、茨城県内すべての市町村の歴史や文化、名所や名物などを知ることができたことは、一人一人の生徒にとってとても貴重な経験となったはずです。『魅力度ランキング』で最下位を低迷している茨城県ですが、様々な魅力があることを再発見できたことは、「郷土を知る」という意味でも有意義であったと思います。



本番直前まで、問題を確認します



早押し問題に挑戦する3人



当日は補欠を含め8人で参加しました